

第3節 国際ネットワークづくり

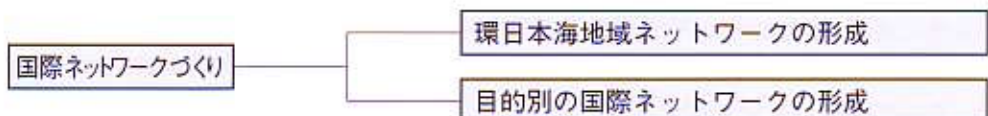
交通・通信手段の発達に伴い、国境を越えての人、物、情報の流れは今後ますます活発になっていくものと予想されます。特にパソコン通信やインターネットといった情報・通信手段の発達は、国境を隔て地理的に離れた地域と地域、個人と個人が直接的なネットワークを形成する可能性を開きつつあり、マルチメディアの実用化によって、より多彩な情報がこのネットワークを通じて流れ、様々な新しい取組みが実現されていくものと予測されます。

また、世界の各地域で近代化が進み、都市計画や環境保全、住民の教育・福祉・医療など、近代化を進める上での課題やその影響を、より多くの地域が共有するようになってきています。

こうした中であって、海外の地域との交流のあり方も、友好親善にとどまらず、相互の地域の発展にとってメリットのある交流や国際協力的な性格のものに力が注がれるようになってきており、また、多地域間でネットワークや都市連合を形成し、相互に協力し合って共同の事業を実施していこうとする動きもみられるようになってきています。

こうした地域間の国際ネットワークを形成していくことは、世界のそれぞれの地域に蓄積されている様々な情報やノウハウ・人材を共通の財産として活用して相互の地域の発展を図ることを可能とし、共同の調査研究やプロジェクトの実施を通じて共通する課題の効果的な解決を図っていくことが期待できます。また、ネットワーク間での交流や協力を行政だけでなく府民、民間国際活動団体、大学・研究機関、企業などが連携して進めることにより、新しい文化やライフスタイルの創造と地域の活性化を促進し、異なる文化との共生や共通の平和と豊かさを求める地球市民意識を育むことにもつながります。

こうしたことから、京都府の特性や発展方向を踏まえながら、地域の近接性や目的に応じた国際ネットワークの形成を図り、地域の活性化や学術・文化の発展に積極的に役立てていくことが必要です。同時に、こうした地域間の国際ネットワークは、相互の発展、ひいては地球社会の平和と繁栄につながるものでなければならないことはいまでもありません。



1 環日本海地域 ネットワーク の形成

(1) 環日本海地域の特徴とネットワークを進める意義

環日本海地域とは、日本、ロシアの極東地域、中国の東北地方、韓国、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）を指すのが一般的ですが、必ずしも決まった定義があるわけではなく、日本海を中心とする北東アジア地域として、これより広い範囲で語られることもあります。

この地域は、古くから文化的なつながりを持ち、日本海を介して多彩な交流が行われてきましたが、第2次世界大戦後の東西冷戦構造の中で、日本海は「対立と緊張の海」となっていました。その後、関係国間の国交樹立や旧ソ連の崩壊による東西冷戦構造の終焉など、北東アジア地域に緊張緩和・民主化・市場経済化の波が押し寄せてくるようになり、ボーダレス化の進展、東アジア経済の急成長などとも相まって、本来持つ地理的な近接性を取り戻しつつあり、将来的に大きな発展の可能性と交流のダイナミズムを秘めた地域として注目され始めています。

こうした潮流の中で、環日本海諸国の持つ資源、人材、技術、資本等を相互に補完し合って、多国間の開発や経済協力を実現していこうとする国際的な動きも活発化しており、日本とロシア間の北方領土と平和条約締結の問題や北朝鮮の対外開放の動向などのいくつかの課題はあるものの、日本海は「平和と友好の海」へと姿を変えようとしています。

こうした特色を踏まえながら、環日本海地域でネットワークを形成していく意義は次のように考えられます。

ア 府民の環日本海諸国に対する理解と地球市民意識の醸成

地理的に近接した地域でありながら、これまで相互の交流があまり進んでいなかった環日本海諸国への府民の関心や理解が深まるとともに、文化交流や国際協力を府民参加で進めることによって、異なる文化との共生や共通の平和と豊かさを求める地球市民意識が育ちます。

イ 相互の学術・研究の振興

環日本海地域の大学・研究機関がネットワークをつくり、研究者や学生の相互派遣、国際会議の開催、共同研究など幅広い学術交流を行うことによって、京都府と環日本海地域全体の学術・研究の振興を図り、共通課題の解決や地域の発展に貢献することができます。

ウ 北部地域の活性化と京都経済の発展

舞鶴港や高速交通ネットワークなどの基盤施設の整備や、北部地域での拠点都市圏の整備が一層促進され、人、物、情報の交流が活発になることに伴って、京都府における貿易の振興や北部地域での雇用の拡大など地域の活性化につながるとともに、環日本海地域全体としての経済的発展が進むことにもなります。

エ 共通する課題への対応

国境を越えて影響を及ぼす酸性雨や海域環境の汚染、限りある漁業資源の管理など、環日本海地域に暮らす住民の生活にかかわり、相互の協力がなければ解決できない課題について、共同して対応していくことができるようになります。

オ 環日本海地域の平和と安定への寄与

これまで「近くて遠い国」として存在してきた環日本海諸国と経済、文化、学術などの分野で交流を進め、相互理解と友好関係を築くことによって、この地域の平和と安定に寄与することができます。

(2) 環日本海地域ネットワークの推進方向

ア 交流を進める条件づくり

友好提携の締結という手法に必ずしもとらわれず、相互の必要性に応じて経済・文化など各分野における交流・協力関係を築いていくとともに、環日本海アカデミック・フォーラムをはじめとする学術ベース、あるいは企業ベース、民間団体ベース、個人ベースでの交流活動を活発化していくなど、多分野での重層的なネットワークづくりを進めていくことが必要です。

また、環日本海地域の歴史や文化、経済等についての理解を深める機会や情報の提供、外国語教育や人的交流などを通じて、環日本海地域の交流を担う相互の人材育成を図っていくことが大切です。

更に、環日本海地域の物流・交流拠点となる舞鶴港や高速交通ネットワークなどの基盤施設の整備を推進し、福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市などを核とする北部地域での中核都市圏の形成を促進するとともに、環日本海交流を進める関係府県等と連携して共同の取組みを進めていくことも重要となります。

イ 各分野での環日本海交流の推進

(ア) 相互理解の促進

府民が環日本海諸国の歴史や文化、生活を知り、相互に理解を深められるよう、相互の文化の紹介、芸術、スポーツの交流などを進めるとともに、特に次代を担う青少年の交流を促進します。

(イ) 学術・教育交流の推進

環日本海アカデミック・フォーラムの創設をはじめとして、京都府内に集積する大学・研究機関等との協力・連携を強め、情報の交換、研究者や学生の相互派遣、共同研究、国際シンポジウム・セミナーの開催などを積極的に支援していきます。